

令和6年度（2024年度）第2回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日時 令和6年（2024年）7月11日（木）10時00分～12時00分
- 2 場所 東海市役所 501会議室
- 3 出席者 山本 隆明、吉原 雅哉、榊原 弘之、近藤 高史、牲川 順一、早川 権慈、毛利 まり子、南川 陸夫、寺島 賀子、武富 時満、田中 治幸、森岡 良枝、吉鶴 弥生、加古 博之、龍田 昭一、千頭 聡アドバイザー（委員15名、アドバイザー1名、敬称略）
環境経済部次長兼生活環境課長、リサイクル推進課長、生活環境課ゼロカーボン戦略室長、生活環境課統括主任2名、生活環境課主任2名、リサイクル推進課主任、株式会社地域計画建築研究所3名
（事務局8名、業務委託業者3名）
- 4 欠席者 なし
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容
 - 1 あいさつ
山本委員長よりあいさつをした。
 - 2 報告事項
事務局より資料を用いて報告を行なった。
委員からの意見等はなし。
 - 3 協議事項
 - (1) 施策体系（案）について
事務局より資料を用いて説明した。
委員等からの意見等はなし。
 - (2) ビジョン（案）について
事務局より資料を用いて説明した。
施策体系案及びビジョン案について、部会別で議論を行なう前に千頭アドバイザーから留意事項として次のとおり説明した。

（千頭アドバイザー）：検討では、大きな目線と個々の取り組みが入っているのかの2つの目線があり、前者が大切である。検討の際には、計画書を読んだ市民が10年後の東海市をイメージできるものになっているかを考えてほしい。また、施策

は、今後10年を見通して足りないところがないか確認してほしい。例えば、循環型社会の柱の中にサーキュラーエコノミーの話は入れにくいと事務局から説明があったが、今後10年を考えると、水の循環が必ず話題になる。その中には、降った雨がどのように循環するかという都市基盤の整備に大きく関わるものもある。計画案では廃棄物の循環のみになっているため、自然との共生に入るのかも知れないが、水の循環などのグリーンインフラについても考慮した方がいいと考える。

(事務局)：サーキュラーエコノミーを循環型社会に入れるのは難しいが、水循環については、自然との共生や生活環境保全、気候変動などで記載したいと考えている。

施策体系(案)及びビジョン(案)について部会に分かれて議論し、その内容について全体会で各部長より概要を報告した。

ア 社会環境部会(寺島部会長)

施策体系の構成(案)について、特に意見はない。

施策の目標(案)について、生活環境保全の目標「空気がきれいで暮らしやすい生活環境になっています」について意見が多く、現状と目標に乖離がある中で「暮らしやすいと言ってしまって良いのか」という意見があった。

ビジョン(案)については、①の「みらいをつくる」の前に「明るい」「暮らしやすい」など何か形容詞が必要ではないかという意見があった。また、「環境と共生」という言葉とは何を意味するのか分かりにくいという意見があった。

イ 生活環境部会(吉原部会長)

施策体系の構成(案)について、柱の名称が「循環型社会」となっているが施策ではごみについてのみ記載されている。循環はごみだけでなく二酸化炭素や水などもあるので、テーマと施策が合っておらず内容に足りない所があるのではないかという意見が出た。

施策の目標(案)について、「自然と共生するまちの形成」の施策目標で、農地等は、総計で農地は保全、公園緑地は整備となっているので整備ではなく、維持に修正してはどうか。また、「環境意識の向上」の施策の目標について「関心」を「意識」とし、マナーの向上など倫理観に触れてはどうか。最後に、「環境保全活動の実践」の記載を「市民全体と環境保全活動を担う個人や様々な団体などが協働しながら積極的な活動を行なっています。」にしてはどうか。

ビジョン(案)については、①については、先ほども意見が出たが、共生する対象が環境となっており分かりづらい。自然なら分かりやすいが、そのような意

味では③の方がもう少し具体的で分かりやすいという意見が出た。

ウ 廃棄物・リサイクル部会（榊原部会長）

施策体系の構成（案）について、「生活環境保全」の推進項目に「大気汚染・降下ばいじん対策」、「水質汚濁・悪臭・騒音対策」など「対策」という言葉が、他の項目の推進、活用、保全等の言葉に対してやや強い、という意見が出た。ただし、行政、市民、企業が一体となって推進して行くことを考えると、主たる対策実施者である企業も含まれているので、これでも良いとなった。

また、「循環型社会」の柱でリサイクルを実生活で取り組むのは大変であるため、上手く取り組む仕組みやツールが必要であるという意見が出た。

施策の目標（案）については、十分な検討ができなかった。

ビジョン（案）については、②か③が良いということであったが、最終的には③が良いという意見になった。③の文言を検討する中で「自然と共生し」とあるが、「地球と共生し」の方が良いのではないかという意見が出た。また、「とうかい」は漢字の方が良いのではないかという意見が出た。

エ 事務局意見

部会長から報告があったが、それ以外にも部会の中で委員の皆さんから様々な意見をいただいております、それらについても計画の検討に活かしていきたい。

オ 千頭アドバイザー意見

皆さんの意見はそれぞれなるほどと思った。事務局はこれらの意見を踏まえて、次回は修正案を出していただきたい。また、2つの部会から意見が出ていた「生活環境保全」の目標について実際に委員が求めているのは、総計の「生活に支障を感じない」というレベルであると皆さんの意見を聞いて思った。これらについては、あまりきれいな言葉で表現するのではなく、強い言葉である「対策」をあえて使うことで意思表示はできるのかなと感じた。

(3) 指標（案）について

事務局より資料を用いて説明を行った。指標（案）については次回の部会で検討を行なう。

委員からの意見等はなし。

(4) 計画期間（案）について

事務局より資料を用いて説明を行った。

（事務局）：原案のままで良いのか、1年短くした方が良いのか意見を伺いたい。

（環境経済部次長）：委員にどのような影響があるのか。

(事務局) : 1年短くした場合、9、10月で部会と推進委員会を2回やる可能性がある。また、総合計画が決まっていないため、総合計画の策定状況によっては環境基本計画の検討も影響を受ける可能性がある。原案の場合大きな問題は無いが、デメリットは最後の年にアンケートをとれないことである。

(山本委員長) : アンケート取る・取らないことについては、指標の推移がどのようになっているか分からないが、必要なアンケートはコストをかけてもとるべきである。それを今判断するのは難しいと思うので、事務局一任で良いと思われるかどうか。

(会場) : 異議なし。

(5) 第1・2章素案について

事務局より資料を用いて説明を行った。委員からの意見等は次の通り。

(南川委員) : 資料8の14ページでエコスクール参加者数の推移が掲載されており、平成29年と令和元年が突出しているが、その理由は何か。

(事務局) : 平成29年はフジバカマ植栽会と秋祭りで参加者が増えており、令和元年は市政50周年記念でさまざまなエコスクールを開催したことによる。

4 全体を通した千頭アドバイザー意見

(千頭アドバイザー) : 東海市の環境基本計画なので東海市のことが書いてあるが、自然のことなどを考えた場合には、もっと広域的な範囲の中で東海市の自然がどんな位置づけにあるのか、冒頭で少し広域的に東海市を見る記述があった方が良い。

5 その他

(1) 今後のスケジュールについて

事務局より次回の部会と推進委員会のスケジュールについて説明を行なった。

(2) その他

ア 降下ばいじんの測定結果について

(山本委員長) : 先月、降下ばいじんの新年度の結果の公表があったが、それについては今回、委員と共有しないのか。

(事務局) : 次の部会で報告する。簡単に概要を報告すると、光化学オキシダントを除く項目で環境基準を達成している。光化学スモッグの原因となる光化学オキシダントは、東海市内の全測定局で達成されていない。但し、これについては全国で0.1%程度しか達成されておらず、愛知県内の62の測定局すべてが達成出来ていない。降下ばいじんの測定結果については、令和4年度は過去最低で3.3t/km³/月、令和5年度は3.67t/km³/月となっている。増えた原因は、明確では

ないが、令和4年度は過去最良の数値であり、風速が弱く、またコロナ禍で企業の生産活動が低かった影響が考えられることから相対的に数値が低かったと推察される。増えた理由については引き続き具体的に分析しながら、今後も測定を続けたい。

（山本委員長）：本日の資料8の p.15 に指標の関係で載っているので参考にさせていただきたい。

（事務局）：ご案内として、市のホームページに、「降下ばいじんのよくある質問」というQ&A形式のコーナーを掲載した。こういった情報提供は他の市町村でほとんど行っているところはないと思うが、ご高覧いただきたい。